

佳作

がらんとした槽

與那嶺 明文

窓の外から死人が顔を覗かせているけれど
僕はそれに気づかないふりをしながら
ただひたすらリンゴを剥いている。
夜明けは遠く光は細く
死人が虚ろな眼を向けているけれど
僕は手元のリンゴを見つめながら

ちいさなナイフをそえて
くるくる、くるくる、と
リンゴを剥いている
外は冷たい雨 冬の雨 夜の雨 窓を叩く
指先は悴んで今にも手を滑らせそう
死人が窓に青白い顔を押し付けて見ている
震える指を懸命に動かす
赤い螺旋が続いていく
慎重に
慎重に
ひとつなぎの皮が途切れぬように